

～オホーツク管内博物館連絡協議会連絡誌～

はばた

翔け才博協！

第 6 号

発行年月日 令和8年3月31日
〒090-0015

発行所 北海道北見市公園町1番地
北網圏北見文化センター内
オホーツク管内博物館
連絡協議会事務局
TEL.0157-23-6742
FAX.0157-31-8344

令和7年度事業

1. 諸会議の開催

(1) 令和7年度オホーツク管内博物館連絡協議会総会

・期日：4月25日(金)

報告事項

- ① 令和6年度事業報告について
- ② 令和6年度決算報告について
- ③ 令和6年度監査報告について

協議事項

- ① 令和7年度事業計画(案)について
- ② 令和7年度予算(案)について

(2) 令和7年度オホーツク管内博物館連絡協議会役員会

・期日：4月25日(金)

協議事項等については総会内容と同じ

2. 研修事業

(1) 研修会(北見市)

・7月27日(日)

・場所:北網圏北見文化センター

・内容:企画展「残したい情景、伝えたいまな
ぎし 金山平三・佐竹 徳」ギャラリー
トーク

3. 助成事業

(1) 助成先:美幌博物館

- ・申請研修名:11月24日(月) 日本魚類学会シンポジウム参加(研修旅費として)
- ・場所:東京海洋大学品川キャンパス
- ・助成金額:98,570円

4. 広報活動

・機関紙「翔け才博協！」第6号の発行

5. その他

- (1) 会員相互の資料の貸借及び斡旋
- (2) 講演、研修会、企画展等の後援
～会員の各館事業に対する後援

令和7年度オホーツク管内博物館 連絡協議会総会報告

令和7年度の定期総会が4月25日(金)、北見市の北網圏北見文化センターで開催されました。総会では、令和6年度の事業報告・決算報告・監査報告などが報告され、また令和7年

度の事業計画(案)・予算(案)について説明・協議されました。出席13機関、委任状4機関の合計17機関全員により承認されました。

令和7年度オホーツク管内博物館
連絡協議会研修事業(北見市)
北網圏北見文化センター

優れた文化芸術に触れる機会を地域市民に提供することを目的に、北見市企画展実行委員会の主催の企画展を北網圏北見文化センターで開催しています。今年度は、7月26日から8月31日まで、公益財団法人日動美術財団が所蔵するコレクションの中から、近代日本の洋画家・金山平三と佐竹徳の作品を紹介する展覧会「残したい情景、伝えたいまなざしー金山平三・佐竹徳ー」を開催しました。

本展では、奥入瀬から瀬戸内まで日本各地を旅し、季節や風土に寄り添って描かれた二人の作品約80点が並びました。また、14歳の年齢差を超えて互いに尊敬し、心を許す仲であった二人の交流にも注目し、二人の画家が同じ場所を異なる色と構図で描いた作品の展示のほか、学芸員によるギャラリートークを行いました。



会場の様子

関連イベントでは、ジオラマ作りのワークショップを実施しました。「木のある風景」「わたしの残したい風景」をテーマに、粘土やスポンジを素材として、ジオラマを制作してもらいました。完成した作品の一部は展覧会のスパイスとして、会場入り口に展示しました。

来場者からは、本格的な風景を鑑賞する貴重な機

会を得たとの声が多く聞かれたほか、ギャラリートークにより両画家の品格と調和に満ちた作品をより深く知ることができたこと、ジオラマ作りによる「ものづくり」の楽しさを体験することができたとの感想をいただきました。実行委員会の目的でもある優れた文化芸術に触れ、振興の寄与に貢献できたものと思います。

今後も利用者の幅広いニーズに応えられるよう多彩な展覧会やイベントを企画していきたいと考えています。



ギャラリートークの様子



ワークショップで制作したジオラマ

令和 7 年度オホーツク管内博物館
連絡協議会助成事業(美幌町)
美幌博物館

令和 7 年 11 月 22 日から 24 日に東京海洋大学で開催された日本魚類学会に参加してきました。また、シンポジウム「淡水魚類の生態的多様性と種分化 - 北方性淡水魚類を中心に -」では、発表を行いました。本シンポジウムでは、日本産北方性淡水魚類の生態や種分化に関する研究を牽引してきた後藤晃博士の指導を受けた教え子を中心に、それぞれの研究対象魚類について後藤博士とともに明らかにした知見を持ち寄り、現在の地平と未来の研究の可能性について議論しました。

まず、コンピーナーである高田啓介博士から、ソヴィエト連邦崩壊後に日露の魚類研究者による交流が始まり、後藤博士を中心に積極的な研究が行われてきたことが紹介されました。また、近年発展がめざましい遺伝解析技術についても、わかりやすい解説がありました。

次に、酒井治己博士より、日本産カワヤツメ属にウチワスナヤツメとミナミスナヤツメの新種が記載されたことが示されました。これら新種の発見にも後藤博士は大きく貢献されました。イワナについては山本祥一郎博士、ウグイについては渡辺勝敏博士、イトヨについては樋口正仁博士、トミヨについては松本達也博士がそれぞれ最新の知見を紹介しました。

そして、後藤博士の主たる研究材料であった淡水カジカ類について、横山良太博士、木下泉博士より、話題提供があり、懐かしい後藤博士との調査風景に会場が笑いに包まれました。その中でも特に、ロシア連邦バイカル湖で行われた集団遺伝学解析や生態調査は、大変興味深いものでした。バイカル湖には、世界の 20% の淡水をたたえる広くて深い環境があり、これに適応した淡水カジカ類は、多種多様な種類に進化していました(専門用語で「適応放散」と言います)。

さて、私は「海峡を越えたエゾホトケドジョウ」と題

して、発表を行いました。エゾホトケドジョウは、円筒形の細長い体に 8 本の髭をもつ冷水性純淡水魚で、成熟したオスは、メスより小さく、体の側面に 1 本の黒い線が現れます。日本では、北海道と青森県北部に、国外ではサハリン南部に分布し、沼や河川下流域の流れのない湿地に生息します。海水適応がないことから、北海道の淡水魚類相形成を考える上では、まるで仏のような存在です。

青森県のエゾホトケドジョウは、人為的に移植されたと後藤博士も含めて考えられてきました。しかし、ミトコンドリア DNA を用いた調査の結果、青森県は固有の地域集団であることが明らかになりました。また、本種の分布全域に広がる 2 つの主要なハプロタイプは、津軽海峡を跨いで分布しており、青森県のエゾホトケドジョウは在来種と考えることが妥当であり、この結果には後藤博士も驚いていたというエピソードを紹介しました。さらに、サハリン南部に分布するエゾホトケドジョウについても調べたところ、樺太時代に北海道から持ち込まれた外来種であることが明らかになりました。

このような研究を紹介してきましたが、後藤博士が追い続けてきたように、食べてもおいしくないし、お金にもならないけれど、魚の進化や生態をひもとくことで、とても面白いことがわかってきました。一つ一つの魚の面白さを伝えることが、結果としてその魚を守ることに繋がります。これからも、後藤博士に言われた「現場の近くに暮らし、調査研究し、保全活動をするのが大切だ」という言葉を胸に、活動していこうと思います。今回の日本魚類学会への参加は、その思いを改めて強くする機会となりました。

オホーツク管内博物館連絡協議会会員名簿

(令和8年3月現在)

設置主体区分	No.	市町村名	施設名	備考
町 村	1	美幌町	美幌博物館	
	2	斜里町	斜里町立知床博物館	
	3	清里町	清里町郷土資料館	
	4	訓子府町	くんねっぷ歴史館	
	5	遠軽町	遠軽町埋蔵文化財センター 遠軽町郷土館 丸瀬布郷土資料館・丸瀬布昆虫生態館 木のおもちゃワールド館 ちゃちゃワールド	
	6	湧別町	湧別町ふるさと館JRY	
	7	佐呂間町	佐呂間町開拓資料館	
	8	置戸町	置戸町郷土資料館	
市	9	北見市	北網圏北見文化センター ピアソン記念館・北見ハッカ記念館 端野町歴史民俗資料館 ところ遺跡の館	
	10	網走市	網走市立郷土博物館 網走市立郷土博物館分館(モヨロ貝塚館)	
	11	網走市	網走市立美術館	
	12	紋別市	紋別市立博物館	
国・道・財団等	13		(公財)博物館網走監獄	網走市(設置場所)
	14		(財)北海道立北方民族博物館	網走市(設置場所)
	15		(財)北海道立オホーツク流水科学センター	紋別市(設置場所)
	16		東京大学大学院附属常呂資料陳列館	北見市(設置場所)
	17		東京農業大学学術情報課程(オホーツクキャンパス)	網走市(設置場所)
賛助会員	18		NPO法人オホーツク文化協会	北見市(設置場所)
	19		GROUP 斜面	北見市(設置場所)